



地元の食べものを食べて 暮らしやすいまちにしていこう



《問合せ》農林水産課 ☎23-1127

地元の生産者の経営安定や意欲向上につながり、将来にわたって食べものを作り続けることができるまちに近づきます。また、お金が市外へ流出せず、地域内で循環することで、まちが経済的に豊かになります。

豊岡市にとって良いこと

地元の食べものは収穫・生産されてから短い時間で私たちのもとに届く場合が多く、鮮度が高いといえます。鮮度はおいしさや安全性にも寄与します。

私達消費者にとって良いこと

食べものを購入する時に、何を基準に選んでいますか？ 選ぶ元のものを選んで消費すると、良いことがたくさんあります。「豊岡市や地球環境にとって良いこと」は「私たちや子どもたちが暮らしやすい未来を創ること」につながります。地元のおいしい食べものを食べて、暮らしやすいまちを創っていきましよう。



食べものを購入する時に、何を基準に選んでいますか？ 選ぶ元のものを選んで消費すると、良いことがたくさんあります。「豊岡市や地球環境にとって良いこと」は「私たちや子どもたちが暮らしやすい未来を創ること」につながります。地元のおいしい食べものを食べて、暮らしやすいまちを創っていきましよう。

ご存じですか？「コウノトリ育む農法」「コウノトリの舞」

「コウノトリ育む農法」は、農薬や化学肥料に頼らず、おいしいお米と多様な生き物を同時に育み、コウノトリも住める文化・地域・環境づくりを目指すための農法です。市内全ての小中学校の給食で、この農法のお米が使われています。



「コウノトリの舞」は、本市の農産物ブランドで、市内で、環境に配慮した方法で作られた農産物、農産加工品が認定され、認定ロゴマークを貼り付けて販売されています。

生産者の声 瀬尾雅仁さん(出石町嶋)
生き物を増やすための「コウノトリ育む農法」に魅力を感じ、農業の世界に飛び込みました。安全・安心な「コウノトリ育む農法」で作ったお米や、「コウノトリの舞」の認定品を食べて、一緒に豊岡の自然を守っていきましょう。



地球環境にとって良いこと

食べものの輸送にかかるエネルギーが小さく、環境負荷の低減につながります。また、市内で作られた農産物には「コウノトリ育む農法」など、農薬や化学肥料を低減し、環境に配慮した農法で作られたお米や野菜があり、これらを食べることも環境負荷の低減につながります。

公式SNS等で、豊岡の農業、農村、食の魅力を発信中！
Facebook、Instagram、Twitterで検索！

豊岡グッドローカル農業推進室

10月は「骨髄バンク推進月間」

あなたにしか救えない命があります



日本では毎年新たに約1万人の方が、白血病などの血液疾患を発症しています。一人でも多くの患者さんを救うために、一人でも多くのドナー登録が必要です。患者さんに移植の機会が確保されるよう、骨髄バンクに登録してみませんか。

ドナー登録できる方

- 内容を十分に理解している方
- 年齢が18歳以上、54歳以下で健康な方

- 体重が、男性は45kg以上、女性は40kg以上の方
- ※提供できる年齢は20歳以上55歳以下です。家族の同意が必要です。

※詳細は豊岡市ホームページを確認してください。



骨髄バンクドナー登録会を開催します

次の日程で、献血併用型ドナー登録会を開催します。

- ▶日時 11月15日(火)
午前10時～11時30分
午後1時～4時
- ▶会場 コープデイズ豊岡

骨髄等移植ドナー助成事業

骨髄等を提供した方(ドナー)に対して助成金を交付します。詳細は市ホームページを確認してください。



《問合せ》健康増進課 ☎24-1127

一人当たり毎日ご飯1杯分の食べ物を捨てています

できることから食品ロスを減らそう



10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」

日本では、本来食べられるのに捨てられてしまう食品「食品ロス」が、2020年度に年間約522万トン発生しています。これは、国民一人当たり換算すると、毎日ご飯茶わん1杯分、約113gを捨てている計算です。

一方で、日本は多くの食料を海外から輸入しています。また、家計における食費の割合は約4分の1を占めています。

日本の大切な文化である「もったいない」の心を大切に、皆さんそれぞれができることから食品ロス削減に取り組んでみませんか。



食品ロス削減に効果的な3つの方法

- ①使い切れるだけ買う
- ②家にある食材・食品をチェック
- ③肉や魚の保存方法を工夫



調理で作りすぎない、余ったら作り替える

食べきれなかった時は、他の料理に作り替えるなど、献立や調理方法を工夫しましょう。

生ごみ処理機でごみ減量

本市では、家庭から出される生ごみを減量するため、電気式生ごみ処理機を使って自家処理をする方に、購入費の一部を補助しています。

◆対象 次の全てに当てはまる方

- 市内に住所を有し、居住している
- 過去5年間にこの補助を受けていない(世帯単位)
- 購入後、継続して利用する

◆補助金額 購入価格の2分の1(上限3万円)

◆補助枠 残枠9台(1世帯1台限りで先着順)

◆申込方法 住所・氏名・電話番号を電話またはファクスで購入前に連絡してください。

《問合せ》生活環境課 ☎21-9136、FAX23-0915



食品の期限表示を正しく理解する

食品の期限表示は「消費期限」と「賞味期限」の2種類があります。開封していない状態で、表示されている保存方法で保存した場合の期限が表示されています。

消費期限は「食べても安全な期限」、賞味期限は「おいしく食べることができる期限」です。賞味期限は過ぎててもすぐに廃棄せず、自分で食べられるかどうかを判断することも大切です。

10月は「3R推進月間」です。実はごみのことを考える時のキーワードを英語で表すと、偶然「R」で始まるものが多いんです。

一般的に言われるリデュース(発生を減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再生して利用)の他に、リフューズ(不要なものをもらわない)、リペア(修理する)、リバイ(再生品を購入)、レンタル(借りる)、リフォーム(改善・改良)、リスポンシビリティ(最後まで責任を持つ)等の言葉があります。そして新しい言葉が「Renewable」。使い捨てになっってしまう容器などを、せめて再生可能な素材にする行動です。「R」ではじまる、これらの素敵な選択や行動は、全てごみを減らすことにつながります。豊岡には幸いごみ焼却場があり、つい遠慮なくごみを出してしま



第14回 「R」ではじまるごみ削減アクション

地球温暖化を防止するため、身近な環境問題と家庭でできるエコ活動を紹介します。

《問合せ》生活環境課地球温暖化防止対策室
☎21-9136

いがちですが、国内にはごみ焼却場を新設できないことをきっかけに削減の努力をして、世界的にも注目されている自治体があります。そもそも余計なものを買わないのが一番自分にとって本当に必要なものかどうかを考える「リシンク(ReThink)」の意識が大切です。長く使える物を選び大切に。お金を物だけでなく心が喜ぶサービスや、良いモノを作っている方への応援に使うという心持ちも大切なかもしれません。

最近リユースショップも増えていますが、手放しにくい思い出の品は、写真だけを残すようにして、使ってくれる人にバザーなどで譲ることで、幸せが循環するかもしれませんね。

(文) NPO法人 暮らしのエコをすすめる但馬の会